

(様式4)

## 学 位 論 文 の 内 容 の 要 旨

氏 名 坂入 和也 印

(学位論文のタイトル)

精神障害者の自然災害における準備教育の検討

(Study of education on natural disaster preparedness for psychiatric patients)

(学位論文の要旨)

本研究は、精神障害者を対象とし、精神障害の障害特性のうち、精神的動揺と判断行動に着目して、災害発生時には自分の命を守るためにどう行動すればよいのかという知識の獲得と、災害への備えの意識を高めることを目指した看護師による災害時準備教育を実施し、その有効性について検討することを目的とした。

精神科病院に入院中の患者22名を対象として7人程度の小グループ活動の中で、1回30分程度の災害時準備教育を目的とした講義を5回開催した。対象者の平均年齢は、 $58.9 \pm 13.7$ 歳であり、男性が13名(65.0%)、女性が9名(40.9%)であった。

災害時準備教育プログラムは、災害社会工学の専門家が小学校で実践した防災教育の教育内容や被災体験者が綴った書籍などを参考に作成した。教育プログラムの内容は、5つの主題から構成され、5回に分けて講義を行った。5つの主題は、①災害に関する基礎的な知識：知識を与えて自然災害を恐れるのではなく、自然のもたらす災いとうまく付き合っていく姿勢を持つことを目指した、②日ごろからの備えと心構えについて：自然のもたらす災いを「うまくやり過ごす知恵」が必要になり、普段の生活で災害が起きた時どう行動するかを考えておくこと、③災害時に必要となること：災害が起きた時の生活を示して、自分の命は自分で守る姿勢が一番大切であることと、身体も心も健康を保つことや元の生活に戻ることが大切であること、④避難所での生活について・災害支援者の役割と仕事：避難所では知らない者同士が生活しなければならないことと、新たな人間関係を築かなければならないという心配があるが、普段の病棟での生活ができていれば心配する必要がなく、手助けしてくれる人がたくさんいること、⑤災害が起きたときの対処方法：手助けしてくれる人には自分の状況を正確に伝えることが大切であり、助けて欲しい時にどうすればいいのかを日頃から考えておくこと、である。

研究の目的と方法について、口頭と文書で説明し同意を得た後、第1回目の日本語版Profile of Mood States短縮版(以下、POMS短縮版)とLazarus Type Stress Coping Inventory(以下、SCI)の調査を実施し、教育プログラムを行わない時期(5週間)を経た後、2回目のPOMS短縮版とSCIについての調査を実施してから、教育プ

プログラム1回30分程度を5回（1週間に1回のペース）実施した。1回目の教育プログラムの5週間後に3回目のPOMS短縮版とSCIの調査を実施した。

対象者それぞれの講義に対する受け入れ状況を把握するために、介入の前後の気分の変化や精神的な動揺についてPOMS短縮版を用いて比較検討した。また、SCIを用いてストレスコーピング能力についても比較検討を行った。気分の変化について、POMS短縮版の6つの気分尺度について比較分析した結果、介入前は、有意な差は見られなかった。しかし、介入後は、「緊張不安」と、「抑うつ-落込み」の項目において、得点が有意に減少していた。ストレスコーピングの変化について、介入前と介入後のどちらにおいても有意な差は見られなかったが、平均値においては、介入後の方が「計画型」、「社会的支援模索型」において、高い数値を示していた。

教育プログラムが対象者にとって有効であるためには、講義において、不安や緊張が緩和されリラックスした状態になることが望ましく、また、精神障害者は、災害によりストレスを受けるため、災害への備えの意識を高め、行動化を促すことが、ストレス対処力の向上に繋がると考えられる。教育プログラムの講義を受けることによって、対象者が、災害に対する基本的な知識を得て、災害に対して前向きにとらえることができ、また、災害が起きたとしてもどのような行動をとったらよいのかを学習できた結果、「抑うつ-落ち込み」が有意に減少していたと考えられる。

「計画型」、「社会的支援模索型」「自己コントロール型」の対処型の傾向を示す数値が高くなったということは、ストレスに対して柔軟に対処できるようになった可能性を示していると考えられ、講義終了後には、慎重に問題解決を図ろうとし、かつ、災害発生時に他者への信頼とともに社会的支援を求める方法や、的確な対処法を学び、危険を予測して、主体的に回避する力を獲得できた可能性が考えられる。

以上のことから、教育プログラムは、精神障害者が災害発生時の避難行動の知識を得て、災害への備えの意識を高めるために、「緊張や不安」「抑うつや落込み」を軽減させるのに有効であると考えられる。また、本研究により、精神障害者が自然災害時準備プログラムを受講し、それによって、「緊張」や「不安・抑うつや落込み」を軽減させるばかりでなく、ストレスコーピング能力が、災害時準備プログラムという介入によって高められる可能性が示唆された。